

〈資料1-1〉

平成29年度 各部の目標と評価

※評価について A:よくできた B:だいたいできた C:あまりできなかった D:できなかった

【 総務部 】

分掌の課題	本年度の目標	目標実現のための具体的な取り組み	評価	今年度の評価と次年度への課題
・ 防災関係の取り組み	・ 地震などの災害が起きた時に、対応できる能力をつける。	・ 地震が起きた際にどのような行動をとる必要があるか、講演を聞いて学習させる。避難先の選定をきっかけに、家族と話し合う機会を作る。通学経路や生徒の避難先を把握する。	A	・ 自宅で災害が起こった時や通学途中で災害が起こった時の避難先を生徒に調べさせ、家族と相談する機会を作った。職員研修会を行い、災害が起こった時にとる行動を確認した。
・ 学校行事の効率的な準備と運営	・ 各学年・他の分掌と連絡を密にとり、スムーズに行事が進むようにする。	・ 昨年度のアンケートにより改善点を検討し、各部との効率化を図ると共に、事前の打ち合わせを綿密にし、各担当が動きやすいようにする。	A	・ オープンハイスクール運営では生徒会役員とボランティア生徒を活用して、生徒指導部と連携をとり取り組んだ。打合せ通りに生徒が動いたのでスムーズに実施することが出来た。
・ 管理(清掃)のスムーズな実施と徹底	・ 整美委員から話を聞く機会を増やし、生徒が課題を見つけて自分たちの学校の清掃に取り組めるようにする。	・ 現状の問題点を考えさせ、あるいは提示し、生徒なりの解決方法で取り組ませながら、改善していく。	B	・ 清掃については、おおむね良好だが、教室前の廊下のモップがけについては、徹底できていない部分があるので、整美委員からクラスに周知させる。

【 教務部 】

分掌の課題	本年度の目標	目標実現のための具体的な取り組み	評価	今年度の評価と次年度への課題
・ 教育課程の編成	・ 各教科との連携を図り、より魅力と特色のある教育課程を編成する。	・ 進路希望調査や生活実態調査などの結果から生徒の実態を把握して、各教科と連携を図ることによって、より良い特色ある教育課程を編成する。	A	・ 進路希望調査や生活実態調査などの結果から生徒の実態を把握し、各学年・教科と連携を図り、進路実現をサポートできるような特色ある教育課程を編成した。 ・ 平成34年度からの新しい学習指導要領に対応できる教育課程の編成を進める。
・ 習熟度別授業の拡充	・ 最適水準の授業を提供し、基礎学力を定着させる。	・ 同時展開が可能なように時間割の編成を検討し、更に習熟度別授業の精選と充実を図る。	A	・ 各教科と連携し、基礎学力の定着に向け、アクティブ・ラーニングの推進や習熟度別授業の精選と充実を図った。 ・ 平成34年度からの新しい学習指導要領実施にむけて授業改善を進める。
・ 新しい指導方法の研究	・ 新しい指導方法(アクティブ・ラーニング等を取り入れた指導)へ取り組む意識の向上により、活力ある教育活動を実施し、指導力の向上をはかる。	・ 一般・職員問わず気軽に見学できる公開授業やテーマ(主体的・対話的で深い学びを意識した授業・ICTを活用した授業)を設定した研究授業・授業参観を実施し、新しい指導方法の研究を図る。	A	・ 一般・職員問わず気軽に見学できる公開授業やテーマ(主体的・対話的で深い学びを意識した授業・ICTを活用した授業)を設定した研究授業・授業参観を実施し、多くの職員がテーマに沿った授業に取り組み、情報交換を行った。
		・ 学期ごとに授業評価アンケートを実施し、その結果を授業改善に取り入れる。	A	・ 各職員に1学期の授業評価アンケートの結果を返却した。2学期からの授業改善に向けて、各自で分析できるように用紙を作成した。1, 2学期の分析がどのように反映されているかの各担当で検証をし、来年度の授業改善を行う。
・ 成績処理のシステム化	・ 校務支援システムを全職員が利用できるような環境整備をする。	・ 県下統一の校務支援システム早期導入にあたり、全職員が利用できるよう校内研修を実施する。また、データ管理の重要性も併せて研修する。	B	・ 今年度は県下統一の校務支援システムを仮運用で早期導入した。全職員が利用できるよう校内研修を実施した。本運用に向けて準備を進めている。年度初めに全職員対象にシステムの使用について研修を実施予定。

【生徒指導部】

分掌の課題	本年度の目標	目標実現のための具体的な取り組み	評価	今年度の評価と次年度への課題
・ 自らの判断で自立的に行動できる生徒を育てる。	・ 基本的生活習慣の確立	・ 校門でのあいさつ運動。下校指導の徹底。遅刻者の指導を行う。	A	・ ほとんどの生徒が気持ちよく挨拶をするようになった。若干、下校時刻を守れない生徒がいる。下校指導の強化。
・ 生徒が充実した高校生活を送るための手助けをする。	・ 交通マナーの向上と交通事故防止 ・ 多様化する生徒への柔軟な指導	・ 交通安全講習会の実施。交通立ち番の実施。全校集会等での喚起や指導を行う。 ・ 個々の状況を把握し、部会等を通じて対応策を協議する。	B A	・ 計画的な指導を行っているが、相変わらず交通事故がなくなる。声をかけ続ける。 ・ 会議を通じて情報の共有がはかかれている。教師の発想の転換も必要か。

【進路指導部】

分掌の課題	本年度の目標	目標実現のための具体的な取り組み	評価	今年度の評価と次年度への課題
・ 3年間を見通した進路指導	・ 進路指導部だけでなく、各学年の進路係りが3年間を見据えた進路指導を行う。	・ 定期的に進路部会を開催し、進路指導部と学年、そして各学年間での共通理解を深める。	A	・ 他学年の進路計画も共有することができたことで、さらに先を見据えた進路指導を行うための計画ができるようになった。
・ きめ細かな進路指導を通して、生徒一人一人が持つ能力を最大限に引き出す	・ それぞれの学年に応じた講演会や説明会を実施することで、進路実現に向けての意欲、主体性を高める。 ・ 学校と保護者が一体となって生徒の進路意識向上を図る。	・ 1年生には文理選択について、2年生には大学の学部・学科について、3年生にはそれぞれの進路目標に応じた入試情報等に関する講演会を実施する。 ・ 保護者対象の進路講演会や説明会を実施するとともに、「CGC便り」や学年通信を通じて生徒・保護者への情報提供を行う。	A B	・ 計画通りに実施できた。それぞれの生徒が自分のこととしてとらえられるよう、実施方法・内容についてさらに検討していく。 ・ 学校・学年と保護者の連携に関しては、その学年も良好な関係が築けた。さらに進路情報の量と質を精選し、提供していく。また、進路通信のあり方、方法について検討すべき余地がある。
・ 週末課題の精選・質の向上	・ 生徒が主体的に取り組むことができる課題について、学年・教科で検討し、提示する。	・ 週末課題の現状把握を学年団の教師が共有する。他学年や他教科の取り組みを参考にしながら、課題を提示する。	B	・ それぞれの教科において、生徒が自主的に取り組めるよう工夫がなされた課題を提示し、それに応える生徒数も多くなってきた。
・ 新制度への準備	・ 2020年から始まる「大学入学共通テスト」、「学力評価テスト」に向けての対応を図る。	・ 情報を収集・整理し、全職員で共有する。	B	・ 研修会は職員が新テストに向けて考えるいい機会となった。今後、学校全体としてさらに具体的に取り組んでいく必要がある。

【図書情報部】

分掌の課題	本年度の目標	目標実現のための具体的な取り組み	評価	今年度の評価と次年度への課題
・ 読書活動の推進と、アクティブラーニングの拠点としての図書館の利用	・ 蔵書の充実を図り、図書館を利用した読書活動の更なる活性化を図る。	・ 生徒会図書委員会と連携して、読書の啓発活動を行う。 ・ 各教科と連携して、蔵書の選定を図ると共に、図書館を活用した授業の実施を推進する。	A	・ 英文多読、読書指導(1年)、小論文に対応した蔵書を充実させてきている。調べ学習など、授業での活用も増えている。
・ 授業、校務へのICTの利活用の推進	・ ICT機器利用のための環境整備と、新校務システムに対応したネットワーク環境の整備。	・ ノートPC、タブレットPCを活用した授業を推進する。教員用PCの更新を図り、新システムに備える。	B	・ ICT機器の授業への活用は進みつつある。より多くの場面で活用できるよう、機器の整備とともに、活用方法の勉強会を増やしていく。 ・ 新校務システムの本格運用をスムーズに行えるようにする。
・ 安全・安心な情報管理	・ 個人情報、セキュリティについての意識を高める。	・ 職員研修を実施し、情報管理・情報発信に関する共通理解を図る。	B	・ PCや情報機器を実際に用いての少人数での研修会を増やしていく。
・ 校外に向けての情報の発信(広報委員会)	・ 中学生およびその保護者に向けて、本校の志望意欲を高める情報を発信する。	・ Webページで学校の最新情報を発信する。定期的かつタイムリーに広報紙を発行する。	A	・ Webページは安定した閲覧数を持続している。個人情報、プライバシーへの保護に一層の注意を払う。
・ 学校教育目標の達成のため、学校評価を行う(学校評価委員会)	・ 学校評価の結果を、各部・学年の取組に活かしていく。	・ 学校自己評価、外部評価等を迅速に処理し、各部・学年にフィードバックする。	B	・ 日程が窮屈になってしまった。評価結果を有効に活用できるよう、評価項目を見直す。

【保健部】

分掌の課題	本年度の目標	目標実現のための具体的な取り組み	評価	今年度の評価と次年度への課題
・ 生徒の健康状況の把握とその向上	・ 健康診断の確実な実施と事後措置を徹底する。 ・ 各種保健調査とフォローアップを実施する。	・ 健康診断の結果から、健康状態についての把握を行い、有所見者には早期受診を促す。場合により保護者、学校医、主治医と連携し学校生活上の安全を図る。	A	・ 問題なく実施できた。まだ病院受診ができていない生徒には引き続き受診を促す。
・ 保健室来室者への適切な対応と来室状況の把握	・ 睡眠や休養など基本的な生活習慣の見直しを図り、自分の健康に関心を持たせる。	・ 学習、部活動等多忙なスケジュールをこなす生徒の生活面への保健指導を充実する。 来室生徒の心身の問題に対しての早期発見、早期対応を図る。	A	・ 生徒一人ひとりに合わせた配慮、対応を行っている。今後も学年、保護者、各関係機関との連携を図り、より細やかな対応に努める。
・ 主体的に健康な生活を送る能力の育成	・ 保健委員会を活性化し、身近な問題から健康意識の向上を図る。	・ 生徒保健委員会による広報誌の作成、各行事等での安全対策、救護活動を実施し、学校の健康づくりのリーダーという意識を持たせる。	A	・ 広報誌やポスターの作成、石鹸点検、救護活動等、積極的に活動を行った。
・ 教育相談の充実	・ 学習や進路、対人関係の悩み、心身の不調、不登校等の早期発見と、継続的な相談活動を実施する。	・ 校内連携、キャンパスカウンセラー、外部専門機関との連携を活かした、チームでの支援を行う。	A	・ 校内連携を活かし、外部機関との積極的な連携を行っている。
・ 学校環境衛生の維持、改善	・ 学校環境衛生の整備	・ 学校薬剤師と連携し、定期的に環境衛生検査、整備を行う。	B	・ 問題なく実施しているが、再検査や事後措置を引き続き行う必要がある。

【教育推進部】

分掌の課題	本年度の目標	目標実現のための具体的な取り組み	評価	今年度の評価と次年度への課題
・ 各分掌間の連携を密にし、教育活動の活性化を図る	・ 生徒の「自主・自立」の意識を高める活動を推進する。 ・ 生徒が主体となって職員・地域と協働できる活動を推進する。	・ 生徒会、生徒指導部、学年を中心として、「公共マナーの向上」と「自転車事故防止」に特化した取り組みを実施する。 ・ 「県立高校で考える県政150周年記念事業」を活用し、学年、教科、部活動、類型等が連携して、地域の活性化につながる提案に向けて取り組む。	B B	・ 目標である生徒の「自主・自立」に向けた取り組みは進めているが、「マナー向上」「自転車事故防止」に特化した取り組みは不十分。風紀・交通安全両委員を中心に委員会の活動を促進する。 ・ 部活動、国際市民類型、学年、教科の協力で加古川市の活性化に向けた取り組みを進めている。さらに多くの生徒、職員がかかわった取り組みにしたい。

【第3学年】

分掌の課題	本年度の目標	目標実現のための具体的な取り組み	評価	今年度の評価と次年度への課題
・ 最高学年としての自覚をもたせる	・ 最高学年としての自覚をもたせ、下級生に影響を与え学校の方向付けをしているという意識をもたせる。生徒会活動、部活動の完結を目指し、学校行事を牽引する。	・ 最高学年としての1年をそれぞれの所属で完全燃焼させることに重点を置き、活動の指導・助言をしっかり行う。さらにそれが下級生に与える影響であることを理解させ、最高学年としての意識をもたせる。	A	・ 生徒会活動、部活動、行事などそれぞれの所属で完全燃焼を目指してくれた。全国・近畿大会出場を含め顕著な活動実績もみられ、生徒会活動も活発さを増した。その取り組みは下級生にも引き継がれるものだと思う。
・ 団体としての意識をもたせる	・ 受験は「団体戦」という意味を理解させる。将来に向けても団体のもつ力の意義を理解させる。	・ 生活面では、文化祭や体育大会などを通してクラスの団結がもたらす成果を実感させる。進路面では、クラスや類型別集会、集会などを通して意義を説明し、集団の雰囲気をつくる。	B	・ 文化祭や体育大会では最高学年としての自覚から、最高のパフォーマンスをしてくれた。クラスや学年の団結がみられ、集団の雰囲気も良かった。受験が近づき、やや体調不良も含め欠席が目立ったことが団結という面では残念な時期があった。集会等で生活面と団体の意識向上を図ることが大切だろう。
・ 進路実現に向けた信念をもたせる	・ 確固たる進路目標を設定し、信念をもった進路実現への言動を育成する。	・ 進路HRや学年集会、授業や補習、総合学習や面談などあらゆる場面を利用して、目標突破には信念の部分が大きいことを理解させ、自立させる。	B	・ 「信念」という学年の進路指導のキーワードを常に掲げ、集会や通信などで生徒に発信した。授業中心主義を崩さず、補習や総合学習では選択肢を増やし進路実現を図った。国公私立大とも、後期試験まで諦めずにしっかり取り組む意識を育てることが大切である。
・ 人権意識を育成する	・ 身近にある差別を知り、自分の心を見つめる大切さと、他人への配慮の気持ちや優しさを育てる。	・ 年間4回の人権ホームルームを通して、進路や結婚などにおける差別を学習させる。普段の学校生活での対話の場面を活用する。	A	・ 高校卒業を前に現実的な差別問題を取り上げた。作業やグループ討議、DVDやレクチャーなどあらゆるアプローチができた。4回目(最終回)に総まとめとして様々な人権を扱った。普段の生徒の様子やいじめアンケート等に生徒の優しさが反映されている。
・ 保護者との連携を図る	・ 保護者と連絡を密にして、生徒の理解に努め、進路実現のための連携体制をつくる。	・ 分野別進路講演会(5月)や三者面談(7月・12月)、学年通信や進路通信、ホームページなどを通して、生徒の進路について連携をとり、理解と指導の共有を図る。	A	・ 分野別の講演会や三者面談を通して、保護者と意思疎通、共通理解ができた。通信やHPで学校での様子や情報が提供できた。特にHPでの画像、コメントの掲載に力を入れた。

【 第2学年 】

分掌の課題	本年度の目標	目標実現のための具体的な取り組み	評価	今年度の評価と次年度への課題
・ 中核の学年としての意識	・ 学習だけでなく、学校行事、生徒会活動、部活動など、あらゆる場面で中核の学年であるという自覚を持たせる。	・ 行事やHR、集会、各活動の場において、2年生が活動の中核であるという自覚を持たせ、主体的な取り組みをさせる。	A	・ 学校行事では学校の中核となり、主体的な取り組みを見せ、その成果を上げた。生徒会活動では、オープンハイスクールなどにおいて、新たな取り組みに挑戦し、行事の活性化に貢献した。部活動も80%以上の加入率を維持し、全国・近畿大会出場等を決めた部活動もあった。次年度は最上級生としての自覚を持ち、下級生の見本となるような取り組みができることを期待したい。
・ 団体としての意識	・ 「チーム71」という、団体としての意識を持たせ、学年全体でお互いを高め合える環境を作っていく。	・ 授業や学校行事を通して、団体の力が個人の力を高めることを理解させ、学年の団体意識が高まる声掛けを行う。	A	・ 2年生最大の学校行事である修学旅行の成功経験を通して、クラスや学年の団結力が感じられ、その雰囲気個々の成長にも繋がっていた。学習面でも、学習の雰囲気をクラスや班で作っていかうとする意識が見られたが、クラスによってかなり差があった。「受験は団体戦」という意識を常に持たせながら、最終学年を過ごしたい。
・ 進路実現に向けた意識	・ 具体的な進路目標を早期に設定させ、主体的に学習しようとする意欲を育てる。	・ 総合学習の時間やLHRなどを利用して、大学等に関する知識や情報を与え自分の将来について考察を深めさせる。	B	・ 3年生が近づくにつれて、進路意識も高まり、進路希望も明確になってきた生徒が多いが、確固たる目標を設定し、信念をもって進路実現に向けて行動できている者は、まだ少ない。目標達成のための道筋を自ら考え、行動できるようにサポートしたい。
・ 学年外との連携	・ 類型に応じた学習指導方法・進路選択等を、学年外と連携を図りながら学校をあげて取り組む。	・ 学年会議等での情報交換を通じて、生徒の状況を把握し、各部、各教科と連携を図りながら、よりよい指導を行う。	B	・ 類型に応じた学習指導を行ってきたが、その効果を上げられない生徒もいたため、主体的に取り組む意欲を育てる工夫が必要である。また、不登校傾向の生徒が多く、自己肯定感が低い者もいるので、次年度も引き続き、職員間の共通理解を図り、サポートする体制を整えたい。
・ 保護者との連携	・ 生徒の心身の健康に配慮し、生徒理解に努めるとともに、保護者との連携を深める。	・ 学年通信やHPを利用して、学校生活の様子を保護者に伝えると共に、保護者会や三者面談を通じて理解を深める。	A	・ 保護者会、三者面談、毎月発行の学年通信を通じて、生徒理解に努め、保護者との連携を深めることが出来た。また、修学旅行におけるブログ開設も、生徒、保護者共に好評であった。今後は、HPを活用をし、画像を通して普段の学校生活の様子を発信する機会を多く持ちたい。

【 1学年 】

※評価について A:よくできた B:だいたいできた C:あまりできなかった D:できなかった

分掌の課題	本年度の目標	目標実現のための具体的な取り組み	評価	今年度の評価と次年度への課題
<p>・高校時代とは、一人前の大人になるための準備期間であることを認識させ、中学生から高校生への意識改革を図らせる</p>	<p>・人間としての在り方、生き方の指導を充実させる。</p>	<p>・心のもった挨拶ができ、高校生らしい服装・頭髪を保ち、集団の一員として状況に応じた言動がとれるように、生徒の人格を尊重しながら丁寧に繰り返し指導する。</p>	A	<p>・挨拶に関しては、相手の顔を見て笑顔とともにいたって自然に大きな声でできるようになってきた。服装や頭髪についても特に乱すこともなく、明るく健全な雰囲気も保たれている。2年生になっても中だるみすることなく下級生の範となるようその雰囲気が継続されることを期待しつつ指導していきたい。</p>
		<p>・コミュニケーション能力の育成として、「相手の話をしっかりと聞き、自ら考え、他者に対して意見を発信する」機会を多く持たせる。</p>	B	<p>・全体に対する教員の話を自分のこととして聞ける生徒がまだまだ少ないことも課題だが、大人の話をも正しく聴き取る力にも不安が残る。国語力を強化しながら、今後も聴く態度と能力を育成すべく指導を続けたい。</p>
		<p>・生徒主体のHR活動・学校行事に取り組みさせる中で、達成感と自信を持たせる。</p>	A	<p>・LHRの企画はできるだけ生徒主体で行うようにしており、それぞれが自らの責任を果たすべくよく努力し、達成感と自信につながっている。今後もできるだけ多くの生徒にリーダーとなる機会を与えていきたい。</p>
	<p>・基本的な生活習慣を確立させる。</p>	<p>・時間の大切さを理解と他者との信頼関係の構築のために、時間と約束を守らせる。</p>	B	<p>・一部の生徒とはいえ、なかなか遅刻がゼロにはならない。2年生では修学旅行もあり、一人のルーズな時間の感覚が全体に及ぼす影響について考えさせながら、根気よく指導を続けていきたい。</p>
		<p>・システム手帳を利用し、規則正しい生活と1日最低2時間の学習時間を確保させる。</p>	B	<p>・大多数の生徒が起床時間・学習開始時間・就寝時間が固定してきた中で自らを律することのできない生活を続けている者もいる。再度システム手帳の有効活用を促しながら、タイムマネジメントできる能力を育成したい。</p>
<p>・保護者との連携を図りながら、生徒理解に努める。</p>	<p>・学年通信を毎月発行し、生徒と保護者の返信欄をもうけることで、一方的な情報提供ではなく双方向的な情報交換を実現し、生徒・家庭・学校が三位一体となった教育を行う。</p>	A	<p>・学年通信では生徒の日常の学校生活の様子をできるだけ伝えられるように工夫し、保護者からも喜んでいただいている。通信が親子のコミュニケーションにきっかけになることも期待しながら、学校・家庭が生徒にとって快適な環境になるよう、三者の協力体制を強化していきたい。</p>	

学校評価アンケート集計結果(教員自己評価)

④そう思う ③どちらかといえばそう思う
 ②あまりそう思わない ①そう思わない

設問 番号	評 価 項 目	29年度集計					H 28 平均	H 27 平均
		④	③	②	①	平均		
1	本校の教育活動は、生徒に充実した高校生活を与えていると思う。	34%	59%	8%	0%	3.3	3.2	3.4
2	本校はその教育方針を日々の教育に生かしていると思う。	21%	70%	9%	0%	3.1	3.2	3.2
3	生徒の理解度に合わせ、質の高い教科指導を行っていると思う。	23%	70%	8%	0%	3.2	3.1	3.2
4	学校行事は計画的に実施し、規律や自主性の向上に成果をあげていると思う。	34%	57%	8%	2%	3.2	3.2	3.3
5	SHRやLHRは有効に活用されていると思う。	30%	55%	15%	0%	3.2	3.1	3.1
6	進路指導は、生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行なわれていると思う。	38%	53%	9%	0%	3.3	3.2	3.1
7	人権学習は、効果的に行なわれていると思う。	21%	60%	17%	2%	3.0	2.8	2.8
8	部活動は、学校生活を充実させるためのものになっていると思う。	28%	60%	9%	2%	3.2	3.2	3.4
9	部活動と学習を両立させている生徒が多いと思う。	6%	42%	47%	6%	2.5	2.6	2.8
10	生徒会活動は活発に活動しているほうだと思う。	34%	55%	11%	0%	3.2	3.3	3.1
11	保護者への連絡や情報公開は適切に行なわれていると思う。	40%	59%	2%	0%	3.4	3.3	3.4
12	職員・生徒にとって、学校の施設設備は満足できるものと思う。	4%	42%	47%	8%	2.4	2.5	2.5
13	本校は清掃活動や環境美化に力を入れていると思う。	25%	70%	6%	0%	3.2	3.2	3.4
14	教室内の環境は快適だと思う。	8%	60%	26%	6%	2.7	2.8	2.9
15	生徒は、加古川西高校生であることに誇りを持っていると思う。	13%	79%	8%	0%	3.1	3.1	3.2

学校評価アンケート集計結果(生徒・保護者)

実施日:平成30年1月10日～1月19日

回答数: 生徒 1年317名(回答率99%)、2年312名(98%)、3年316名(100%)

回答数: 保護者 1年306名(回答率96%)、2年301名(95%)、3年275名(87%)

④そう思う ③どちらかといえばそう思う ②あまりそう思わない ①そう思わない

		生徒					保護者				
		④	③	②	①	平均	④	③	②	①	平均
1. 加古川西高校の教育活動は、生徒に充実した高校生活を与えていると思いますか。	1年	21%	55%	19%	6%	2.90	27%	60%	11%	2%	3.13
	2年	21%	58%	18%	4%	2.96	25%	63%	11%	2%	3.10
	3年	47%	45%	8%	1%	3.37	40%	52%	7%	1%	3.32
	全体	30%	52%	15%	3%	3.08	30%	59%	10%	2%	3.18
2. 本校はその教育方針を日々の教育に生かしていると思いますか。	1年	21%	60%	16%	4%	2.97	18%	66%	14%	2%	3.01
	2年	19%	61%	17%	3%	2.95	24%	63%	12%	1%	3.10
	3年	41%	48%	10%	1%	3.30	31%	60%	9%	1%	3.21
	全体	27%	56%	14%	3%	3.07	24%	63%	12%	1%	3.10
3. 生徒の理解度に合わせ、質の高い教科指導を行っていると思いますか。	1年	19%	52%	23%	6%	2.85	15%	55%	26%	4%	2.81
	2年	23%	61%	15%	1%	3.05	18%	61%	19%	3%	2.93
	3年	39%	51%	8%	2%	3.28	24%	58%	18%	1%	3.05
	全体	27%	55%	15%	3%	3.06	19%	58%	21%	3%	2.93
4. 学校行事は計画的に実施し、規律や自主性の向上に成果をあげていると思いますか。	1年	35%	48%	15%	3%	3.15	30%	62%	7%	1%	3.20
	2年	29%	54%	15%	3%	3.09	28%	58%	12%	2%	3.12
	3年	49%	42%	9%	0%	3.40	39%	53%	7%	1%	3.31
	全体	38%	48%	13%	2%	3.21	32%	58%	9%	1%	3.21
5. SHRやLHRは有効に活用されていると思いますか。	1年	42%	40%	13%	4%	3.21	18%	64%	17%	1%	2.99
	2年	34%	52%	13%	2%	3.18	19%	70%	10%	2%	3.06
	3年	40%	45%	14%	2%	3.22	17%	67%	15%	1%	3.00
	全体	39%	46%	13%	3%	3.20	18%	67%	14%	1%	3.02
6. 進路指導は、生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行なわれていると思いますか。	1年	32%	52%	13%	3%	3.14	17%	58%	23%	2%	2.89
	2年	26%	58%	14%	2%	3.08	19%	61%	19%	2%	2.95
	3年	52%	40%	8%	1%	3.41	35%	48%	15%	2%	3.17
	全体	37%	50%	12%	2%	3.21	23%	56%	19%	2%	3.00
7. 人権学習は、効果的に行なわれていると思いますか。	1年	36%	48%	13%	4%	3.15	16%	64%	17%	3%	2.94
	2年	16%	54%	22%	8%	2.78	14%	58%	25%	3%	2.84
	3年	41%	48%	10%	2%	3.27	16%	61%	22%	1%	2.92
	全体	31%	50%	15%	4%	3.07	16%	61%	21%	2%	2.90
8. 部活動は、学校生活を充実させるためのものになっていると思いますか。	1年	46%	36%	13%	5%	3.23	36%	48%	11%	5%	3.15
	2年	40%	45%	10%	5%	3.19	38%	43%	16%	3%	3.16
	3年	60%	32%	7%	1%	3.50	42%	47%	10%	2%	3.29
	全体	48%	38%	10%	4%	3.31	39%	46%	12%	3%	3.20
9. 部活動と学習を両立させている生徒が多いと思いますか。	1年	18%	43%	27%	13%	2.66	22%	50%	23%	6%	2.88
	2年	12%	38%	37%	13%	2.50	20%	47%	27%	5%	2.82
	3年	42%	43%	13%	3%	3.23	34%	49%	16%	1%	3.16
	全体	24%	41%	25%	9%	2.80	25%	48%	22%	4%	2.95
10. 生徒会活動は活発に活動しているほうだと思いますか。	1年	36%	43%	18%	3%	3.13	16%	57%	24%	3%	2.87
	2年	39%	48%	11%	2%	3.24	21%	63%	15%	1%	3.03
	3年	52%	40%	7%	1%	3.44	25%	61%	14%	0%	3.12
	全体	43%	44%	12%	2%	3.27	21%	60%	18%	1%	3.00
11. 保護者への連絡や情報公開は適切に行なわれていると思いますか。	1年	30%	55%	14%	2%	3.12	22%	51%	22%	4%	2.92
	2年	32%	55%	11%	2%	3.19	23%	60%	14%	2%	3.05
	3年	45%	49%	5%	0%	3.40	34%	50%	15%	2%	3.15
	平均	36%	53%	10%	1%	3.24	26%	54%	17%	3%	3.04
12. 生徒にとって、学校の施設設備は満足できるものと思いますか。	1年	21%	44%	27%	9%	2.76	13%	49%	30%	8%	2.66
	2年	14%	44%	30%	12%	2.60	14%	46%	33%	7%	2.67
	3年	30%	45%	19%	6%	2.99	14%	47%	33%	7%	2.68
	全体	21%	44%	25%	9%	2.78	13%	47%	32%	7%	2.67
13. 本校は清掃活動や環境美化に力を入れていると思いますか。	1年	26%	52%	18%	4%	2.99	23%	63%	13%	1%	3.08
	2年	28%	54%	16%	2%	3.09	28%	59%	11%	1%	3.14
	3年	47%	46%	6%	1%	3.39	30%	56%	14%	1%	3.15
	全体	34%	51%	13%	3%	3.16	27%	60%	13%	1%	3.12
14. 教室内の環境は快適だと思いますか。	1年	19%	52%	21%	8%	2.82	14%	53%	27%	6%	2.75
	2年	18%	50%	24%	8%	2.78	14%	50%	31%	6%	2.70
	3年	38%	44%	15%	4%	3.16	19%	53%	24%	4%	2.86
	全体	25%	49%	20%	7%	2.92	15%	52%	27%	6%	2.77
15. あなた(生徒)は、加古川西高校生であることに誇りを持っていますか。	1年	31%	43%	18%	8%	2.97	28%	51%	16%	5%	3.02
	2年	23%	51%	16%	11%	2.86	30%	51%	15%	4%	3.07
	3年	46%	38%	12%	4%	3.27	48%	41%	8%	3%	3.33
	全体	33%	44%	16%	7%	3.03	35%	48%	13%	4%	3.13

平成29年度 学校経営方針

- | | 評価 |
|---|------------|
| 1 文武両道のこころ優しい人づくりをおこなう。 | 3.8 |
| <p>(1) 部活動を高校生活の重要な要素と位置づけ、部活動への主体的な参加を推奨する。</p> <p>(2) 勉学と部活動のバランスのとれた学校を追及する。</p> <p>(3) 人権意識を高め、人を大切にできる生徒を育てる。</p> <p>(4) 人間関係の基礎であるあいさつがすすんでできる生徒を育てる。</p> | |
| 2 生徒・保護者の多くが希望する国公立大学・難関私大への進学を力強くサポートする。 | 3.5 |
| <p>(1) 全教職員の共通理解のもと3年間を見通した進路指導をおこなう。</p> <p>(2) 緻密で丁寧な進路検討会を行い、生徒一人ひとりの最適な進路を見いだす。</p> | |
| 3 教師の教科指導力を磨き、魅力ある授業を展開する。 | 3.8 |
| <p>(1) 校内研究授業・公開授業を計画的に実施し、教師の指導力を向上させる。</p> <p>(2) 積極的に研修をおこない、教師自ら研究心を持って生徒を指導する。</p> | |
| 4 生徒一人ひとりに応じた教育を提供する。 | 3.5 |
| <p>(1) 週末課題を精選して提示する。(共通課題により学習習慣を確立)</p> <p>(2) 英語・数学の習熟度別授業を効果的に実施する。(最適水準の授業を提供)</p> <p>(3) 希望補習、指名補習を充実させる。(必要とする生徒に必要とする授業を提供)</p> | |
| 5 中学生・保護者に本校の学校経営方針や生徒の学校生活の様子を広報する。 | 3.5 |
| <p>(1) HPにより最新の学校生活を伝える。</p> <p>(2) 紙媒体の学校だよりを発行し、中学校に配布する。</p> | |
| 6 ふるさとを愛し、将来地域社会の担い手となる生徒を育成するための学校づくりに取り組む。 | 3.8 |
| <p>(1) 地域の行事やボランティア活動へ積極的な参加を促す。</p> <p>(2) 地域社会に開かれ、生徒が安心して通える安全で美しい教育環境を整備する。</p> <p>(3) 卒業後も同窓生として関わっていきたいと思える魅力ある学校づくりに取り組む。</p> | |

評価基準	A(4):よくできている	B(3):だいたいできている
	C(2):あまりできていない	D(1):できていない